

長生管内稲作農家 各位

# 長生稲作情報 臨時報

## (令和8年9月16日発行)

長生農業事務所 改良普及課  
担当：黒住、高内、河田  
電話 0475-22-1771

令和8年は、作期を通じて記録的な降雨が続き、被災された方には、心からお見舞い申し上げます。

管内では、大雨の影響により、ほ場がぬかるんでいたり、水位が高く収穫作業が出来ないほ場や、倒伏し穂発芽が発生して収穫が困難なほ場が見られます。また、一部地域では、冠水の影響により、稲刈り後のほ場から流出した稲わらが、特定のほ場や水路に集中している状況が見られます。

今作で出来ることは限られておりますが、下記を参考に次作に向けた対応を実施してください。

### 1 倒伏等によりコンバイン収穫が困難なほ場について

コンバインで収穫せず、来春に細断していない稲を耕起した場合、ロータリーに絡み、耕起作業が困難となります。また、粃ごと稲をすき込んだほ場での水稻栽培では、減肥の検討、漏生粃（ほ場に落ちた粃）対策、還元障害対策や中干しの強化等の管理が必要となります。

そのため、品質の低下等により販売が難しい場合であっても、出来るだけコンバインで収穫作業を実施し、稲わらを細断し、粃をほ場外に持ち出すようにしましょう。また、コンバイン作業が困難な場合には、フレールモア等を使用して稲を細断し、今秋のうちにすき込みを行いましょう。

#### (1) 排水対策の徹底

今秋のうちに、倒伏した稲を刈り取るため、暗渠栓の開放、水尻側の畦の一部を抜く、ほ場内に排水溝を多めに施工するなどし、排水対策を徹底しましょう。ほ場内の排水溝施工には、乗用溝切り機（田植機装着型等）も有効です。

#### (2) フレールモアによる未収穫稲の細断と腐熟促進

##### ア 未収穫稲の細断

大型の作業機が入れる状態（土壌が乾き地耐力の確保ができ、わだちができない状態）になったら、フレールモアで稲を細断します。

##### イ 腐熟促進

- 腐熟を進めるため、気温が高いうちに腐熟促進剤（例、稲わら分解促進剤「アグリ革命」、石灰窒素等）を加え、ロータリーまたはチゼルプラウを用いて秋すき込みを行います。窒素を含む資材を施用する場合、次作の窒素施用量に注意します。
- フレールモアによる細断は、コンバインと比べて細断が不十分なため、ロータリーでのすき込み作業速度を遅くします。
- 作土深5～10cmの浅耕で複数回耕うんを行い、稲わらと土壌を十分に混和します。

##### ウ 減肥の検討

粃ごと稲をすき込んだ場合は、粃の窒素量を勘案して基肥の施肥窒素量を減らし、生育状況に応じて追肥しましょう。

### エ 次作におけるガスわき（還元障害）時の対応

すき込んだ有機物の分解が進まず、ガスわき（還元障害）が強く発生する場合は、一度落水し、3日程度田面を空気に触れさせます。その後、再入水します。また、中干しを徹底してください。

### （3）未収穫稲による漏生籾対策

未収穫のほ場では、多量の漏生籾がほ場に存在し、次作の栽培中に出芽・生育します。漏生籾により発生した稲は、移植稲と比べ生育が遅く、品質低下を招きます。また、前年と異なる品種を作付けした場合は、異品種混入の原因となりますので、以下の対策を必ず実施します。

#### ア 本年（令和8年）と同一品種を作付けする

漏生籾から生じる漏生株は、後述の漏生籾対策を十分に実施したとしても、0にすることは困難です。そのため、漏生株が生じることを前提として、品種切り替えは行わないようにしましょう。

#### イ 代かきを遅らせる

漏生籾は気温の上昇とともに4月上旬から出芽をはじめ、4月下旬にはほとんどの籾が出芽します。そのため、4月下旬以降に代かきを実施します。

#### ウ 初期除草剤の利用

代かき後にプレチラクロールを含む除草剤（例、エリジャン乳剤（植代後～移植前7日）を施用し、漏生籾から出芽した稲を枯殺します。

#### エ 漏生株の抜き取り

収穫した籾に漏生株由来の生育が遅れた籾が混入しないようにするため、生育期から出穂期にかけて、生育が遅れている稲や条間等に発生している稲は、可能な限り抜き取りを行います。

## 2 冠水したほ場について

ほ場が大規模に冠水すると、収穫後の稲わらが特定のほ場に集中したり、ジャンボタニシや難防除雑草のナガエツルノゲイトウなどがほ場間を移動し、これまで侵入が見られなかったほ場でも発生することが考えられます。

そのため、以下を参考に対策を実施しましょう。

### （1）稲わらが流入した場合

ほ場に流れ込んだゴミなどは出来るだけ取り除いたのち、偏った稲わらをほ場全面に均等に広げます。1（2）イを参考に、腐熟促進剤（例、稲わら分解促進剤「アグリ革命」、石灰窒素等）を加え、秋すき込みを行います。

### （2）ジャンボタニシや難防除雑草ナガエツルノゲイトウが侵入した場合

#### ア ジャンボタニシ対策

ジャンボタニシは、田植え後間もない稲の苗を食害し、収量を大きく減少させることがあります。ジャンボタニシが侵入したほ場では、QRコードのリンク先を参考に以下の対策を実施しましょう。

##### （ア）田植え時の食害防止

- ・移植時期を早めて、ジャンボタニシが活動を開始する前に苗を大きくします。
- ・移植後から田植え後約3週間まで水深を4cm以下（理想は1cm）に維持します。
- ・登録のある農薬を施用します。

##### （イ）再侵入防止

取水口にネットや金網を設置し、用水を通じた侵入を防止します。



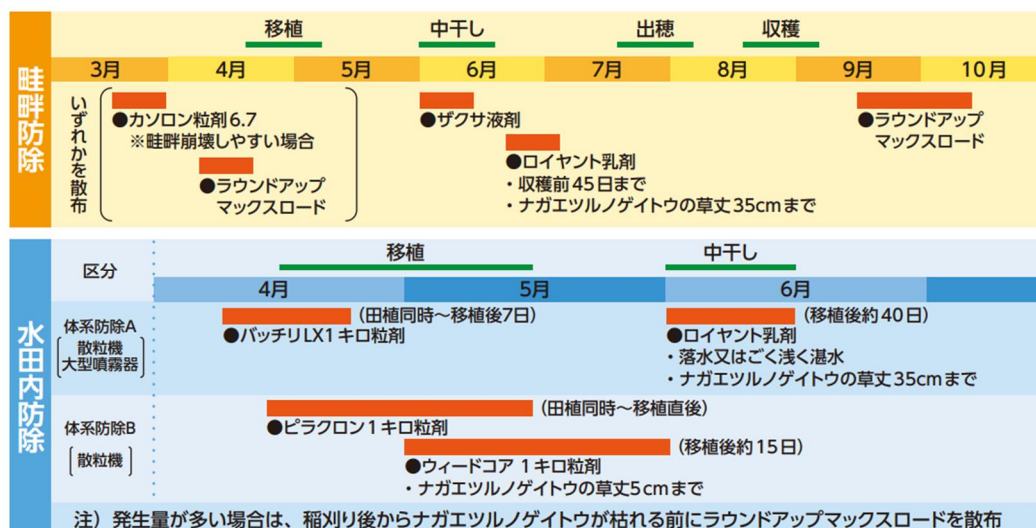
## イ ナガエツルノゲイトウ対策

ナガエツルノゲイトウは、特定外来生物に指定された多年生の雑草です。種子は作りませんが、細断した葉・茎・根の断片から再生し、水に浮くため断片が水流で拡散していきます。ほ場内や畦畔で発生を確認した場合は、QR コードのリンク先を参考に以下の対策を実施しましょう。

### (ア) 除草剤での駆除

刈払機で除草をすると、細断した葉・茎・根の断片が周囲に拡散し、発生範囲が拡大します。そのため、除草剤による体系防除を実施しましょう。

(除草剤の体系防除)



### (イ) 侵入防止

2 (2) イのジャンボタニシの侵入防止対策を参考に、取水口にネットや金網を設置しましょう。

## 3 長生地域の令和8年作における気象経過

### (1) 育苗期

浸種時期の3月中旬に低温の期間がありましたが、4月中旬まで気温は平年より高く、出芽はおおむね順調でした。4月中旬に気温が高く、日照時間が多く推移したことから、4月下旬以降、高温性の細菌病の発生が多く見られましたが、育苗は概ね順調に推移しました。

### (2) 生育期

生育初期の5月上中旬は、気温が高く日照時間が多く推移しました。そのため、田面水を維持出来ていなかったほ場やジャンボタニシの被害を受けたほ場では茎数がやや少なく推移しました。

6月に入ると、継続的に降雨があったことから、茎数は回復しました。しかし、6月上旬に台風6号、下旬に台風7号が相次いで接近し、一部の地域ではほ場の冠水が見られました。7月上旬まで気温が低く日照時間が少なく推移したことから、幼穂形成期は平年並みでしたが、出穂期は平年と比べて4日程度遅くなりました。

7月中旬は、気温が急激に上昇し、日照時間も長くなりました。7月下旬からは、気温は平年より低く、日照時間は平年並みであったことから、登熟は順調に進みました。晩生品種「コシヒカリ」では、稈長が平年より長くなっており、一部のほ場では7月下旬から稲が傾きはじめ、8月上旬には倒伏し始めていました。

### (3) 収穫期

4月20日植えの早生品種「ふさおとめ」は、8月10日ごろから収穫適期を迎えました。

しかし、8月13日から14日にかけて「令和8年8月千葉豪雨」があり、アメダス茂原の観測地点では、252mmの降雨があり、一部地域では、6月に引き続き3回目のほ場の冠水が見られました。8月中旬以降は、定期的な降雨があり、ほ場が乾かず、昨年と比べて稲刈りに時間を要する状況でした。

9月に入ると、5日から継続的に雨が降り続き、特に6日から7日にかけて、合計265mmもの大雨が降り、一部地域では4回目のほ場の冠水が見られました。度重なる冠水と降雨により、穂が継続的に濡れている状況が続いており、倒伏していないほ場でも穂発芽が見られるようになってきました。

#### <気象表（アメダス茂原）>

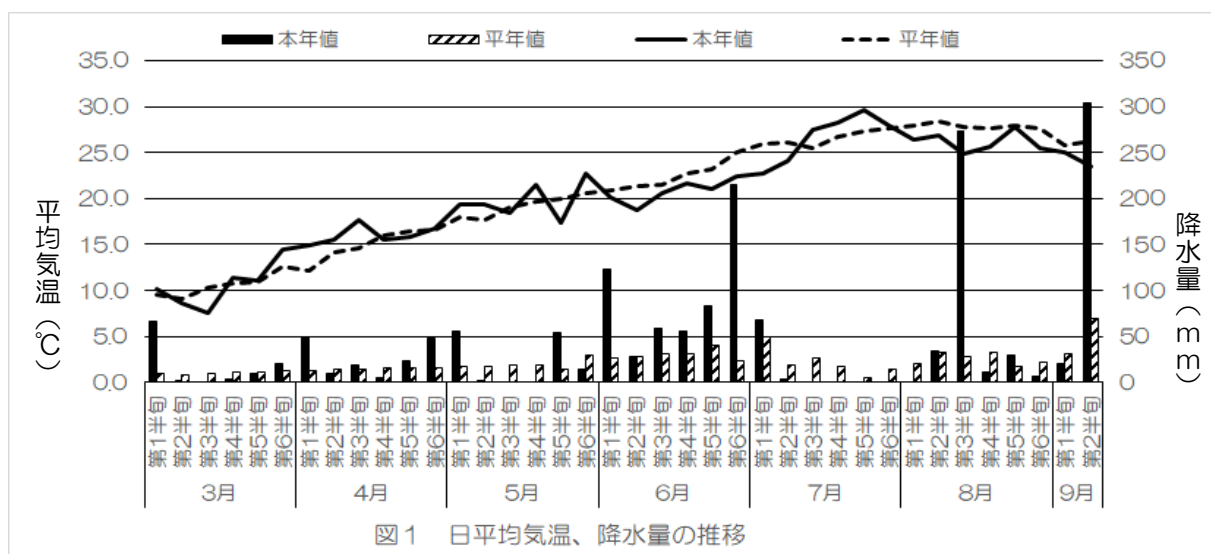


図1 日平均気温、降水量の推移

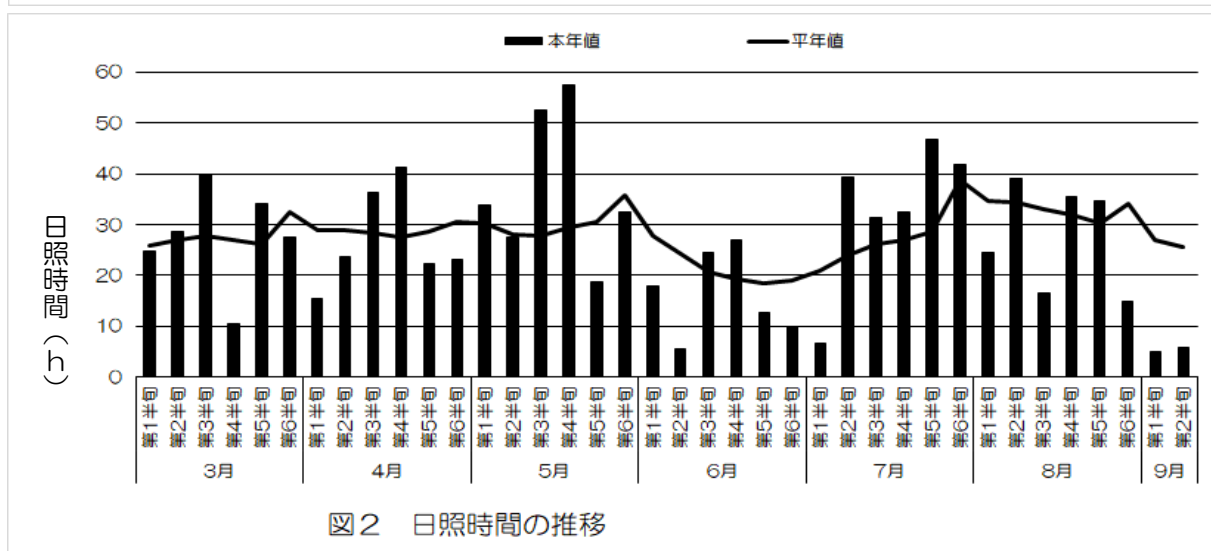


図2 日照時間の推移

※ 平均気温・降水量は2016～2025年までの10年間、日照時間は1991～2020年までの30年間の平均

本資料は、県ホームページに掲載しています。

資料をダウンロードしたい場合は、QRコードまたは下記URLにアクセスしてください。

(URL : <https://www.pref.chiba.lg.jp/ap-chousei/chousei/inasaku.html>)

